

武蔵野市議会  
笹岡 ゆうこさん

(2007年度 現代文化学科 卒業 /  
阿部ゼミ)



Q.1 現在の仕事内容を教えてください。

武蔵野市議会で最年少の女性議員として、主に子育て支援の推進や議会改革などに取り組んでいます。育児をする母の視点・生活者の視点から、次の世代への橋渡し役として、すべての人の人権が守られ、安心・安全に自分らしく暮らせる街づくりを進めています。

Q.2 現在の仕事の魅力を教えてください。

今まで声が届かなかった意見を、市の施策に反映できることにやりがいを感じます。子育て世代や同世代など、共感できる政治家がいないと感じてきた方々の窓口となれるように努めています。

Q.3 その仕事を選んだ理由を教えてください。

きっかけは、息子がまだ乳児の時に起こった東日本大震災です。未曽有の原子力災害にも関わらず、国は「ただちに影響はない」を繰り返すばかりで、「心配だ」という母親たちの声をタブー視する雰囲気さえありました。若い世代や女性、普通の人の声が、政治に反映されていないことに問題意識を持ち、選択肢がないのであれば、自分でつくるしかないと考えました。

Q.4 立教大学社会学部現代文化学科を選んだ理由を教えてください。

集合体としての社会がどのように出来上がるのかに興味を持っていたからです。また、同級生に在日韓国人の友人がいたことにより、自分と友人の立場の違いなどに問題意識を感じたことも理由の一つです。

Q.5 立教大学社会学部で学んだ内容で仕事をする上で役立っていることを教えてください。

公共が行う施策には、費用対効果だけではなく、公共として何を大切にするのかという価値観や倫理観が問われます。社会学部での学びは、行き過ぎたコスト論や、自己責任論ではなく、社会全体のあるべき姿を大切に考えるベースになっていると感じています。

Q.6 立教大学社会学部の魅力を教えてください。

幅広い分野の知識が得られることと、先生方が魅力だと思います。特に、ゼミでもお世話になった阿部珠理先生との出会いは、私の人生においての大きな財産となりました。

Q.7 卒業論文(研究)のテーマを教えてください。

「吉祥寺〜トカイナカの未来〜」という、奇しくも今の仕事と関連があるテーマの卒論でした。生まれ育った武蔵野市吉祥寺を、歴史的、多角的に分析をし、将来のあるべき姿を見出そうとしたものです。

Q.8 学生時代の一番の思い出を教えてください。

マイノリティ文化研究のため、ゼミで沖縄県の久高島にフィールドワークに訪れたことです。久高島は、「神の島」と言われ、今も神事が行われる特別な島です。みんなで神事に参加したり、島の方々と交流したりして、貴重な経験をしました。

Q.9 将来の目標を教えてください。

今後子どもたちの世代のために、自分の頭で考え、意見を持ち、きちんと社会をつなげていくことを実践していきます。

Q.10 最後に高校生へのメッセージをお願いします。

勇気を持って踏み出した一歩は、どのような結果になっても、自分の人生の糧となるはずですよ。失敗も含めて多くの経験を、人と出会いを大切にしながら、ご自身を磨いていってください。

※ 2019 取材時

NHK  
藤松 翔太郎さん

(2012年度 メディア社会学科 卒業 /  
砂川ゼミ)



Q.1 現在の仕事内容を教えてください。

NHKのディレクターとして、ドキュメンタリー番組の制作をしています。番組のジャンルは多岐にわたり、『被曝の森』や『ロストフの14秒』、『アジアが泣いた AV女優の死』など、その時々で放送すべきだと感じたモノを提案しています。

Q.2 現在の仕事の魅力を教えてください。

会いたい人に会えることに尽きます。新聞や本屋で気になる話を見つけ、「この人だ」と思ったら、作者や登場人物に会いに行きます。この仕事を初めて七年になりますが、1000人以上は話を聞いたかもしれません。

Q.3 その仕事を選んだ理由を教えてください。

大学時代にドキュメンタリーの魅力にとりつかれ、映像に映る人が、家族にも言わないような本音を吐露する瞬間を何度も目撃しました。「どうやったらこんな話を引き出せるんだろう」と、ディレクターという仕事に強い憧れを抱き、NHKに入社しました。

Q.4 立教大学社会学部メディア社会学科を選んだ理由を教えてください。

佐賀の田舎で、「テレビ局に入れば、有名な人と知り合いになれるのかなか」と妄想したのが高校2年生の頃。赤本にあった、「メディア」という文字がきらきら光って見えて、これだと思い立教大学を受けました。

Q.5 立教大学社会学部で学んだ内容で仕事をする上で役立っていることを教えてください。

ゼミでお世話になった砂川浩慶先生の三つの言葉です。「メディアは社会の鏡」。「100調べうちの1を出せ」。「人に会い、人に甘え、礼を尽くす」。この三つの言葉なくして、今の自分はいないと感じています。

Q.6 立教大学社会学部の魅力を教えてください。

実は社会の縮図が先生方の講義のなかに隠れています。今は、情報のはびこり、ともすればデマの情報だけに目を向け、あらぬ方向に迷い込むことが多い時代。社会学部の講義が、いろんな角度で社会の姿を見る「目」を養ってくれます。

Q.7 卒業論文(研究)のテーマを教えてください。

「原発とメディア」というテーマで、佐賀県にある玄海原子力発電所とそれに関わる報道について調べました。自分なりに分析した経験が、NHK入局後も、福島第一原発に関わる取材をつづける強い動機になっています。

Q.8 学生時代の一番の思い出を教えてください。

終電後の池袋で、時には恋愛話で盛り上がり、時には将来の夢について友人と朝まで語り合ったことです。ゼミの講義後に、先生やゼミの仲間と議論が熱くなりすぎて仲間同士で喧嘩したことも今ではいい思い出です。

Q.9 将来の目標を教えてください。

社会を広く、深く探求し続け、将来、娘が岐路に立ったときに、彼女にとって一番力になるような助言ができる存在でいたいと思っています。

Q.10 最後に高校生へのメッセージをお願いします。

大学を「就職の予備校」だと思わないでほしいです。先が読めない時代だからこそ、社会で自ら生き抜くための「目」を養い、自分自身の価値観を信じて発言し行動に移してほしい。そんなみなさんを、将来いつインタビューできたらと切に願います。

※ 2019 取材時